

「ご町内のみなさん。おはようございます。こちらは、日本共産党庄原市議会議員の藤木くにあきでございます。日頃よりあたたかいご支援をいただき、本当にありがとうございます。今日は、間近に迫った参議院選挙についてお訴えをさせていただきます。大変お騒がせいたしますが、しばらくの間ご協力をお願いいたします。」

さて、みなさん。「政治を変えたい」という、みなさんのつよい願いが、自公政権をついに退場に追い込み、高校授業料の無料化や生活保護費の母子加算の復活など、現実に政治を、一歩前進させてまいりました。しかし、残念なことに、いまの民主党政権は、政治と金の問題では、だんまりを決め込み、後期高齢者医療制度の即時廃止、沖縄の普天間基地撤去などでは、「公約」を完全に裏切り、ついに、鳩山首相と小沢幹事長は、辞任に追い込まれました。

自民党、公明党はもちろんダメだが、民主党もひどい。いま、そんな声が急速に広がり、無党派層のみなさんがますます増えています。こうしたなか、無党派層のみなさんのとりこみを狙って、自民党を離党した人たちが、いろんな政党をつくっていますが、その根っこは、みんな同じではないでしょうか。くらしをなんとかしてほしい。平和な社会にしてほしい。これらの願いをしっかり受けとめ、政治を前にすすめる党は、いったい、どの党かが、いま、真剣に、問われているのではないのでしょうか。私たち日本共産党は、みなさんの、こうした願いを真正面から受けとめ、3つの解決策を示して、その実現に、全力でとりこんでおります。どうか、よろしくお願いいたします。

第一の解決策は、大企業にくらしと経済に対する社会的責任をはたさせるルールをつくることです。

この10年間で労働者の賃金が1割も減らされ、一方で大企業は、溜め込み金を2倍以上に増やしてまいりました。日本共産党の志位和夫委員長は、「大企業の溜め込み金の一部を国民のくらしに還元させる政策が必要だ」、「そのために、雇用を守るルールと中小企業との公正な取引のルールをつくるのが大事だ」と指摘し、政府に、「検討してみたい」と約束させてまいりました。

そのためには、まず、財界、大企業の圧力をはねかえし、雇用は正社員があたりまえの社会を実現する必要があります。私たちは、その実現のため、全力をつくしてまいります。

第二の解決策は、自公政権によって削られた福祉や医療を元に戻し、さらに充実させることです。

日本共産党の小池晃政策委員長は、国民健康保険の国庫負担を増やして、高い保険税を引き下げよう求め、政府に、「努力したい」と約束させてまいりました。

また、穀田恵二国会対策委員長は、子どもの医療費無料化を、国の制度として実施するよう求め、「優先課題にしたい」と約束させてまいりました。ぜひ、実行させようではありませんか。

私たちは、財界、大企業の圧力をはねかえし、後期高齢者医療制度の即時廃止にも、ひきつづき、全力をつくしてまいります。

第三の解決策は、膨大な軍事費と大企業、大資産家への優遇減税という2つの聖域にメスを入れることです。

自民党も、民主党も「消費税の論議を始める」と、いつせいに言いはじめました。消費税は、みなさんもよくご存知のとおり、所得の少ない人ほど負担がのしかかる最悪の不公平税制です。私たちは、消費税増税につよく反対いたします。

そんなことをしなくても、財界、大企業の圧力をはねかえし、膨大な軍事費と大企業、大資産家への優遇減税にメスを入れれば、年間7兆円の財源が確保できます。アメリカやヨーロッパでも、大企業や大資産家への税金を増やし、庶民には減税をしています。それが、日本でできない理由は、どこにもないではありませんか。こうすれば、私たちのくらしは、抜本的に改善されるのではないのでしょうか。

今年7月におこなわれる、参議院選挙は、「みなさんの声で動く政治」をさらに前にすすめる絶好の機会です。

私たち日本共産党は、企業、団体献金も憲法違反の政党助成金も一切受けとらず、財界、大企業やアメリカに堂々とものが言える政党です。

大企業、大資産家の優遇減税にメスを入れ、くらしに必要な財源を確保する日本共産党。アメリカに普天間基地の撤去を堂々と主張し、実行させる、日本共産党を、大きく伸ばしていただくことが、「みなさんの声で動く政治」をさらに前にすすめる、たしかな力になるのではないのでしょうか。

比例代表は、日本共産党、選挙区は、44歳の西大おさむががんばります。大きなお力添えをいただき、みなさんとごいっしょに、政治を前にすすめていこうではありませんか。

そして、こうした政治や社会の動きをわかりやすくお知らせしている「しんぶん赤旗」のご購読を、お願いいたします。お訴えとさせていただきます。「ご清聴いただき誠にありがとうございます。大変お騒がせいたしました。どうか、働くみなさんの味方、日本共産党を、最後までよろしくお願いいたします。」